平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	都市基盤工学特論B (Advanced Urban InfrastructureEngineering B)			授業コード	M004201
担当教員名	吉村　充功			科目ナンバリングコード	R20204
配当学年	1	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	なし				
受講心得	数学モデルなどの理論が出てくるため、出席するだけでは単位取得できません。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	知識社会と都市の発展(森北出版)　小林潔司 他 編著				
関連科目	都市基盤工学特論A				

授業の目的	21世紀に入り、社会経済活動の高度化、価値観の多様化が進み、都市基盤である道路や鉄道などの事業(プロジェクト)のあり方は大きく変わってきています。そのため、これまでの事業単体を考えるだけでなく、複雑な社会現象をシステムとして把握していく必要があります。本科目では、知識社会で必要とされる社会基盤、都市基盤について自分自身で考えられるようになることを目的とします。
授業の概要	本科目では、土木計画や関連する諸分野を横断しながら、21世紀の社会とされる知識基盤社会で必要となる社会基盤、都市基盤とは何かを様々な視点から解説、実例を示しながら講義を行います。特に工学からの視点だけでなく、経済学の視点、社会学の視点などを交え、多角的なものの見方ができるように講義を展開します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : ガイダンス、概論 ■知識基盤社会の出現	
第 2 週 : 知識基盤社会におけるインフラ(1) ■インフラストラクチャとは	講義内容について復習が必要です(2h)。
第 3 週 : 知識基盤社会におけるインフラ(2) ■インフラストラクチャ整備の重要性	講義内容について復習が必要です(2h)。
第 4 週 : 知識基盤社会と新しい消費パターン(1) ■消費理論	講義内容について復習が必要です(2h)。
第 5 週 : 知識基盤社会と新しい消費パターン(2) ■消費行動	講義内容について復習が必要です(2h)。
第 6 週 : 知識基盤社会と新しい生産パターン(1) ■生産理論	講義内容について復習が必要です(2h)。

第 7 週 ： 知識基盤社会と新しい生産パターン（2） ■生産様式	ここまでの内容に関する学修課題を課します（10h）。
第 8 週 ： 知識基盤社会におけるコミュニケーション（1） ■交通・通信とコミュニケーション	講義内容について復習が必要です(2h)。
第 9 週 ： 知識基盤社会におけるコミュニケーション（2） ■交通行動分析	講義内容について復習が必要です(2h)。
第10週： 知識基盤社会における大都市（1） ■大都市の役割	講義内容について復習が必要です(2h)。
第11週： 知識基盤社会における大都市（2） ■都市の空間構造	講義内容について復習が必要です(2h)。
第12週： 知識基盤社会における地方都市（1） ■地方都市とサービス生産　■大分市の事例	講義内容について復習が必要です(2h)。
第13週： 知識基盤社会における地方都市（2） ■地方都市の活力	講義内容について復習が必要です(2h)。
第14週： 国際化時代と都市の発展（1） ■国際的知識社会の構造	講義内容について復習が必要です(2h)。
第15週： 国際化時代と都市の発展（2） ■都市・地域計画の新しいパラダイム	講義全体の内容に関する期末課題を課します（20h）。
第16週：	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	①知識基盤社会の特徴について理解できる。 ②知識基盤社会と社会基盤(インフラストラクチャー）の関係について理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	

【思考・判断・創造】	①知識基盤社会で必要とされる社会基盤、都市基盤について自分自身で考えることができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		40点		
【技能・表現・コミュニケーション】※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】※「考え抜く力」を含む。		60点		

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	演習レポート(30点)及び期末レポート(70点)により評価します。
発表・その他（無形成果）	